

平成26年度第2回鳥取県日野地区連携・協議会（会議概要）

- 1 日 時 平成27年1月27日（火）午前10時～11時5分
- 2 場 所 日野振興センター 大会議室
- 3 出席者 平井鳥取県知事、景山日野町長（会長）、増原日南町長、竹内江府町長ほか鳥取県及び日野郡3町関係職員

4 あいさつ（要旨）

【景山会長】3町連携も年を重ねて、いろいろと改善をしていかななくてはならないという点多々見えてきました。刻一刻と進む時代に対応できるような組織にしていきたいと思います。連携協議会ができて知事を交えて日野郡3町の町長が意見交換できるようになり、非常に横の連携がよく取れるようになって日野郡の方向性が見えてきたと思います。

今、地方創生を国が本気になって取り組む気構えを示していますので、基礎自治体としても三位一体、国民全体が一緒になって、心豊かな生活ができるような地域をつくっていききたいと思います。

【平井知事】これから地方創生も花盛りになってこよいかと思います。道の駅やたたら、奥大山の美しい自然を活かしていこうなど、たくさんのアイデアが寄せられるようになってきました。これをお互いに協力しながら、それぞれの町も頑張りながら連携を図ることで、この協議会はますますこれからの時代にふさわしいものになっていくのだろうと思います。

また、この枠組みが一つのモデルになって国の方でも連携協約という新しい自治制度ができました。これは従来よりも柔軟に手を結ぶことができる制度でありまして、是非、全国で最初というようなことで我々も名乗りを上げていいのではとっておりますので、ご検討いただければと思います。今は農業や教育だとか、いろいろこの協議会をベースにやっておりますが、これは時代の要請に伴って連携の柔軟な執行が求められるわけでありまして。連携協約を一旦結びますと、その範囲内に収まるものであれば、あとは自由にその都度その都度、迅速に検討できたり、一緒に事業することもできるようになります。この協議会のことも考えながら国が作った制度ではないかと思っておりますので、検討していただければと思います。

5 会議録署名委員の指名

景山会長が「日南町の増原町長」と「江府町の竹内町長」2名を指名

6 報 告

- (1) 平成26年度事業実施状況について
- (2) 平成26年度収支の状況について

事務局八幡事務長から資料により説明、執行残額は各町・県に返納予定

7 議 事

- (1) 第1号議案 平成27年度事業計画（案）について ⇒ 承認
- (2) 第2号議案 平成27年度歳入歳出予算（案）について ⇒ 承認
- (3) 第3号議案 平成27年度負担金（案）の決定について ⇒ 承認

事務局八幡事務長から資料により説明

8 協議事項

- (1) 道路維持等専門部会の取組状況について
- (2) 農業分野等専門部会の取組状況について
- (3) 監査専門部会の取組状況について
- (4) 教育専門部会の取組状況について

各部会長から資料により説明

9 その他（運営の活性化に向けた検討状況の報告）

10 意見概要

<チーム事業について>

- 【竹内町長】消費者行政について、日野郡で高齢者の被害というのは結構無くなってきたと思いますが、例えば警察との情報交換等で実態的に件数がほとんどゼロになってきたというような状況をつかんでおく必要があるのではないかと思います。件数が把握できていない場合は、黒坂署との連携を深めて実態を確認し、活動の効果の認識を持つべきではないかと思います。
- 【八幡事務長】ご指摘のあった活動の効果については今のところ把握していませんが、今後黒坂警察署と連携を図って状況を把握し、活動の効果をつかんで報告できるようにしたいと思います。
- 【景山町長】私は金融機関との情報交換もしてみたらいいのではと思いました。

<地方創生関係>

- 【増原町長】平成27年度事業計画に地方創生とあります。県でもプレミアム商品券を発行される予定ですが、町でもおそらく2割程度のプレミアムを付けた商品券を発行されると思います。例えば、どの町の商品券でも日野郡内で使えるというような商品券にするというのはどうか。商工会にも当然お願いをしなければいけません。例えば今は共同発注の部分で効果が出ていませんが商品券というような形でやってみる、日野郡内でのお金の循環を図るといったようなことはどうかという、提案なのですが。
- 【竹内町長】商品券で気になっているのは、網掛けの部分。県が発行されるのは県内全域で使うことができるもの、そこで各町の経済波及効果ということで、各町でプレミアムをする。県がない場合だったら日野郡が頑張ると連携してと思いますが、日野郡という部門がどうなのか。江府町の人も日野町根雨で買い物をされるので効果があると思いますが、県が発行されるものとの網掛けがどうなのかと考えています。
- 【増原町長】県の商品券について、なかなか全県網かけは難しいと思っていて、例えば旅行に来られる方とか、特産品を買ったりとか。江府町に道の駅ができたときには、やはり日野郡の人間も行かないといけないと考えていて、商品券があるのだから行ってみようかというようなことがあってもいいのではないかと考えています。
- 【平井知事】これは3町間で日野郡全体でやるかどうかは決めていただければ、全然問題ないと思います。参考までに、県のほうでは今、各商工会議所・商工会も含めて協力を呼び掛けておりまして参加を希望する場合に手を挙げていただくようにしています。ですから、米子ばかりとか、そういうことではないと思います。ただ、県としては外からのお客さん、特に観光客に使えるというのは一つの大きな目標にしております。ですので、そういうお客さんがある程度入ってくるわけで、地元を愛して地元の物を買うというのとはちょっと趣旨の違う部分が紛れ込んでいるだろうと思いますので、そこは町のほうで自由にやっていただければと思います。
- 【竹内町長】今増原町長から提案いただいて、江府町で考えるべきか、3町で共同か。江府町の道の駅がだいたい4月の後半にオープン、グランドオープンは6月になると思います。そういうことを考えた時に、駅ですから切符を販売して道の駅で使っていただくというような考え方も持っています。それが、江府町が日野郡の皆さんに切符を販売すべきなのか、それぞれでボリュームを考えて3町協力いただければ、江府町の道の駅はどんどん消費が高まるということです。道の駅では決して江府町のものだけを取り扱おうという考えはなく、日野郡の商品を幅広く取り扱っていかうと思っておりますので、もし出来れば、そんな切符

を販売してもいいのではという構想は持っています。

【景山会長】県としては、地域性の強いものについてはその地域で考えていただきたいということでしたが、私は3町連携で取り組むメニューとしては非常に面白いのではと思っています。今各町が商工会とかそういうところと協議を進めていますので、この問題については3町の担当課長レベルで一度集まって、これからのことも含めて協議をしていただきたいと思います。

<連携協約制度への移行について>

【竹内町長】法定協から新しい協約の形に移行した方がオールマイティーにできるということだったが、やはり多少時間を取って、もう少し噛み砕いた議論をしたほうがいい。幅広く県と3町が共同でしていくということが大切で続けるべきだと思うし、やりやすい方向に転換していくべきだというふうには思いますが。時間を取って議論して、みんなの理解、意思統一を取って、進めていけばいいじゃないかと思います。

【増原町長】制度は次々出てくることなので議論は大事だと思いますが、委員4人が揃うのはなかなか難しい部分があると。それはそれでいいと思うので、やっぱり次の一つの組織の有り様として、半年ずれるのか一年ずれるのか分からないにしても、それもまたスピードアップにならないのかもしれないけども。

【平井知事】竹内町長と増原町長からお話がありましたが、そういうことであれば、例えば我々4人も入る会議もやってもいいと思いますが、また別に、これについては検討のチームを事実上つくって、どういうスキームでまとめていくのかというのを相談してみたらいいのでしょうか。今の4人での意見交換の機会は確かに潤滑油になっていますから、これは絶対に残したいというのと。ただ、実は今もう適応できなくなったことがあるんですね、農業だとか、今の商品券もそうですけども。そういうのが出てきた時に、実は法定協の議論から外れているというのは、法律の枠組みでありまして。やはり新しい仕組みができましたので、連携協約であればお互い協力しましょうということを決めておくだけで、パッと入っていけると。もともと連携協約という制度がなぜできたのかというと、我々はこうやってやるのは凄くフランクでいいなと思うのですが、本当は一部事務組合でやることなんです、そうすると議会がいると。その議会は決して否定されるものでもないですし、大切なものなんですけども。ただ、いちいち議案として新しい議員を構成してやるのはなかなか大変なものですから、便法として今は協議会という話し合いの場を作ることによってやっているわけです。だから実行部隊のところがないので、本当はこれでどれだけ事業ができるかというのは法的に疑問なところでもあります。ただ連携協約ということで、議会には大枠を予め図っているだけで、あとは執行部同士で協議をして進めていくというやり方ですので、そのほうが法的にはしっかりした内容だというのがありました。一部事務組合と法定協議会の間のようなところで、まさに我々が今やっているようなことを念頭に置いて作られている制度ですから、これを一つの検討の中心に置いてもいいんじゃないかなと私は思います。いろいろとご心配な向きもありませんし、初めてのこともともあればなおさらですので、別の場で、よく4者で調整してみればいいんじゃないかなと思います。

<日野郡鳥獣被害対策協議会について>

【平井知事】日野郡鳥獣被害対策協議会は非常に上手くつくられ、すでに活動しておられるのですが、今後どうやって進めていくのかであります。国の事業もだいぶ変わってきつつあって、こういう狩猟のほうに、ちゃんと有害鳥類の駆除に力を入れようということが出てきていますので、それとうまく噛みあわせていくことをやっていければと思います。